

(様式第9)

愛大医総第77号  
平成22年10月1日

四国厚生支局長 殿

国立大学法人愛媛大学  
学長 柳澤 康信

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	51人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	195人	128人	277.8人	看護補助者	28人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	10人	12.6人	理学療法士	5人	臨床検査技師	33人
薬剤師	20人	8人	28.0人	作業療法士	1人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	16人	0人	16.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	529人	10人	536.7人	臨床工学技士	8人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	1人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	2人	2人	4.0人	歯科技工士	2人	事務職員	79人
管理栄養士	5人	2人	7.0人	診療放射線技師	28人	その他の職員	32人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	502.1人	15.2人	517.3人
1日当たり平均外来患者数	1,090.2人	63.3人	1,153.5人
1日当たり平均調剤数		667	剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自家液体塞塞処理骨移植	0人
超音波骨折治療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。  
(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
化学療法に伴うカフェイン併用療法(悪性骨腫瘍又は悪性軟部腫瘍)	6人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	52	・膿疱性乾癬	4
・多発性硬化症	63	・広範脊柱管狭窄症	4
・重症筋無力症	62	・原発性胆汁性肝硬変	27
・全身性エリテマトーデス	126	・重症急性膵炎	0
・スモン	0	・特発性大腿骨頭壊死症	54
・再生不良性貧血	20	・混合性結合組織病	34
・サルコイドーシス	46	・原発性免疫不全症候群	4
・筋萎縮性側索硬化症	32	・特発性間質性肺炎	5
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	105	・網膜色素変性症	23
・特発性血小板減少性紫斑病	34	・プリオン病	1
・結節性動脈周囲炎	16	・肺動脈性肺高血圧症	2
・潰瘍性大腸炎	75	・神経線維腫症	8
・大動脈炎症候群	20	・亜急性硬化性全脳炎	0
・ビュルガー病	12	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4
・天疱瘡	37	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1
・脊髄小脳変性症	47	・ライソゾーム病	4
・クローン病	38	・副腎白質ジストロフィー	0
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
・悪性関節リウマチ	1	・脊髄性筋萎縮症	0
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	169	・球脊髄性筋萎縮症	0
・アミロイドーシス	3	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2
・後縦靭帯骨化症	80	・肥大型心筋症	0
・ハンチントン病	3	・拘束型心筋症	0
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	35	・ミトコンドリア病	0
・ウェゲナー肉芽腫症	14	・リンパ管筋腫症(LAM)	0
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	27	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシヤイ・ドレーガー症候群)	19	・黄色靭帯骨化症	0
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	8	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	0

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	4回/月
部 検 の 状 況	部検症例数 23例 / 部検率 10.70%

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助金等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アルツハイマー病の関連遺伝子探索研究	山縣 英久	泌尿器科	450,000	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病疾患関連遺伝子の同定と医療への応用	大澤 春彦	臨床検査医学	5,000,000	文部科学省科学研究費補助金
白血病関連転写因子TELのES細胞を用いた機能解析と新規結合蛋白の同定	江口 真理子	周産母子センター	500,000	文部科学省科学研究費補助金
自然免疫の新たな制御因子Ubc13による表皮の分化・自然免疫制御機構の研究	佐山 浩二	皮膚科学	4,000,000	文部科学省科学研究費補助金
循環器疾患発症に関与する心理因子と炎症・代謝異常・自律神経機能についての疫学研究	谷川 武	公衆衛生学	50,000	文部科学省科学研究費補助金
12p13転座型白血病の原因遺伝子TELの発生工学的機能解析	江口 雄秀	小児科	700,000	文部科学省科学研究費補助金
IGF-1の下咽頭収縮筋内投与による加齢に伴う嚥下機能低下の予防に関する研究	田口 重紀	耳鼻咽喉科学	700,000	文部科学省科学研究費補助金
網膜視神経節細胞におけるアンジオテンシンII受容体サブタイプの役割	溝上 志朗	眼科	600,000	文部科学省科学研究費補助金
皮膚がん組織におけるリンパ管の制御機構	平川 聡史	皮膚科学	9,000,000	文部科学省科学研究費補助金
高血圧感受性遺伝子群の同定	三木 哲郎	老年医学	4,200,000	文部科学省科学研究費補助金
プロテオーム解析技術を用いた虚血性内耳障害の病態説明・診断法開発	暁 清文	耳鼻咽喉科学	5,700,000	文部科学省科学研究費補助金
クリニカルパスを用いた精神科看護管理支援システムの開発・評価・改良	上野 修一	精神神経医学	100,000	文部科学省科学研究費補助金
高周波誘導法を用いた腎癌の低侵襲焼灼治療システムの開発	渡部 祐司	消化器腫瘍外科学	100,000	文部科学省科学研究費補助金
研修医における処置時の感染防御とその行動に影響する因子に対する検討	高田 清式	総合臨床研修センター	700,000	文部科学省科学研究費補助金
自律神経系機能と耐糖能異常に関する疫学研究	齊藤 功	公衆衛生学	900,000	文部科学省科学研究費補助金
消化管ホルモンおよびその受容体からのアプローチによる腸管相関の解析	松浦 文三	内科学第三	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
白血病幹細胞におけるWT1遺伝子高発現のメカニズムおよびその機能の解明	白方 俊章	内科学第一	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
血小板TOLL-LIKE RECEPTORの活性化とその臨床的意義	羽藤 高明	輸血部	1,200,000	文部科学省科学研究費補助金
新たな動物モデルを用いた難治性ウイルス感染症に対する免疫遺伝子治療の開発	田内 久道	小児科	1,100,000	文部科学省科学研究費補助金
極低出生体重児の慢性肺疾患の客観的指標と早期介入に関する研究	村尾 紀久子	地域医療学	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
リンパ管新生：膜結合型増殖因子による機能制御機構	平川 聡史	皮膚科学	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
マルチスライスCTを用いた“標準的冠動脈支配領域表示ブルズアイマップ”の作成	望月 輝一	放射線科	1,100,000	文部科学省科学研究費補助金
浸潤細胞を使って脳梗塞を教える	久門 良明	脳外科	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
脊髄圧迫部位の血流をリアルタイムに測定するシステムの開発	森野 忠夫	整形外科	700,000	文部科学省科学研究費補助金
胎盤におけるVEGF受容体RNAプロセスング制御機構の解析	松原 圭一	周産母子センター	800,000	文部科学省科学研究費補助金
キャリアー細胞を用いた卵巣癌特異的癌ワクチン療法の開発	濱田 雄行	産婦人科学	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
頭面神経麻痺に対するウイルスベクターを用いた治療戦略の基礎的研究	高橋 宏尚	耳鼻咽喉科学	900,000	文部科学省科学研究費補助金
特異性頭面神経麻痺の新たな麻痺発症責任部位に関する基礎的研究	脇坂 浩之	解剖学・発生学	1,500,000	文部科学省科学研究費補助金
マウス皮膚上皮SP細胞の角膜上皮細胞への分化誘導の検討	白石 教	視機能再生学講座	500,000	文部科学省科学研究費補助金
皮膚悪性腫瘍微小環境の新たな評価法：適切な再建と診断を目指して	森 秀樹	皮膚科学	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
がん抑制遺伝子FATを分子標的とする口腔癌の阻害薬の開発と臨床応用	山縣 英久	医学科環境遺伝学分野	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
内耳虚血に対する人工酸素運搬体の効果	岡田 昌浩	耳鼻咽喉科学	500,000	文部科学省科学研究費補助金
赤血球膜酸化度測定の加齢指標への利用の試みー抗加齢ドック受診者を対象としてー	満田 憲昭	器官生理学分野	900,000	文部科学省科学研究費補助金
超微粒子化βグルカンによるNF-κB活性化を応用した円形脱毛症の新規治療法の開発	佐山 浩二	皮膚科学	1,600,000	文部科学省科学研究費補助金
乳房外Paget病における癌幹細胞の同定および解析	橋本 公二	皮膚科学	1,500,000	文部科学省科学研究費補助金

## 1 研究費補助金等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
組織特異的ノックアウトマウスを用いた角膜上皮細胞におけるHbE-GFの役割の検討	吉岡 龍治	眼科	900,000	文部科学省科学研究費補助金
C型慢性肝炎に対する運動療法のインスリン抵抗性改善効果とそのメカニズムの解析	小西 一郎	内科学第三	1,300,000	文部科学省科学研究費補助金
動脈硬化プラーク破綻におけるレニン・アンジオテンシン系の役割に関する研究	鈴木 純	内科学第二	1,400,000	文部科学省科学研究費補助金
アルドステロン負荷腎障害モデルにおけるオステオポンチン発現機序及び抑制効果の解明	入田 純	第二内科	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
脂腺細胞の新規分泌膜小胞セボソームの生成・分泌機序の解明	永井 彩子	総合臨床研修センター	600,000	文部科学省科学研究費補助金
子宮内膜におけるSide population cellの役割と着床不全	兵頭 慎治	産婦人科学	600,000	文部科学省科学研究費補助金
虚血性内耳障害に対する虚血後低体温の効果に関する研究	兵頭 純	耳鼻咽喉科学	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
内耳虚血耐性とその機序	竹田 将一郎	耳鼻咽喉科学	1,200,000	文部科学省科学研究費補助金
正常眼圧緑内障モデル、網膜特異的BDNFおよびc-fosノックアウトマウスの解析	小林 剛	視機能再生学講座	1,800,000	文部科学省科学研究費補助金
新規口腔扁平癌腫瘍マーカー抗Sideroflexin3抗体の臨床的評価および解析	村瀬 隆一	歯科口腔外科	700,000	文部科学省科学研究費補助金
長期縦断大規模ゲノム疫学研究による生活習慣病発症の遺伝子に関するエビデンス構築	三木 哲郎	老年医学	4,800,000	文部科学省科学研究費補助金
マラリア原虫スロゾイド肝細胞侵入関連分子に対する肝細胞レセプター分子の固定	鳥居 本美	寄生病原体学分野	6,300,000	文部科学省科学研究費補助金
血管老化におけるアンジオテンシンII受容体新規調節物質の病態生理学的意義	堀内 正嗣	医化学・心血管生物学	4,700,000	文部科学省科学研究費補助金
がん特異的T細胞レセプターとケモカインレセプター同時発現によるがん免疫療法の開発	安川 正貴	内科学第一	5,000,000	文部科学省科学研究費補助金
乾癬発症機序におけるNFκB抑制因子Bc1-3、IKBNSシグナル伝達経路の役割	橋本 公二	皮膚科学	5,500,000	文部科学省科学研究費補助金
意味の認知モデルと神経心理学的症候との対応に関する基礎的研究	小森 憲治郎	精神神経医学	1,400,000	文部科学省科学研究費補助金
外部エネルギーと分子標的を認識する磁性ナノ粒子を用いた新たな低侵襲治療法の開発	渡部 祐司	消化管腫瘍外科学	2,700,000	文部科学省科学研究費補助金
地域高齢者こころの健康とADL・QOLの関係要因—13年後の追跡調査	谷川 武	公衆衛生学	15,000	文部科学省科学研究費補助金
地域高齢者こころの健康とADL・QOLの関係要因—13年後の追跡調査	斎藤 功	公衆衛生学	15,000	文部科学省科学研究費補助金
脳卒中予防のための新たな指標である微小脳出血の検討	伊賀瀬 道也	老年医学	1,800,000	文部科学省科学研究費補助金
制御性樹状細胞を用いた炎症性腸疾患発症促進因子の探索と治療への応用	村上 英広	光学医療診療部	1,700,000	文部科学省科学研究費補助金
肝細胞癌で発現するWT1、PKRのC型肝炎ウイルス発症・進展における臨床的役割	日浅 陽一	第三内科	1,300,000	文部科学省科学研究費補助金
神経難病におけるmiRNAの役割の解明	河野 祐治	心血管呼吸器再生外科学	1,200,000	文部科学省科学研究費補助金
レジスチン遺伝子を標的としたインスリン抵抗性エビジェネティクスモデルの体系的確立	大澤 春彦	臨床検査医学	1,300,000	文部科学省科学研究費補助金
免疫系は白血球幹細胞を拒絶できるか—ヒト化マウスを用いた解析—	藤原 弘	精神神経医学	1,400,000	文部科学省科学研究費補助金
ヒト制御性T細胞への分化誘導や抑制機能を高める生理活性物質の解析と治療への応用	長谷川 均	第一内科学	1,500,000	文部科学省科学研究費補助金
表皮特異的及び表皮とT細胞特異的なKOMマウスによるSOCS1の疥癬病態関与の解析	花川 靖	皮膚科学	1,300,000	文部科学省科学研究費補助金
組織特異的遺伝子改変マウスを用いた皮膚腫瘍形成における腫瘍上皮細胞成長因子の解析	白方 裕司	皮膚科学	1,300,000	文部科学省科学研究費補助金
毛包特異的癌抑制遺伝子ノックアウトマウスの作製：癌幹細胞の制御を目指して	村上 信司	皮膚科学	1,500,000	文部科学省科学研究費補助金
抗菌ペプチドCATESTATINによる表皮角化細胞遊走誘導制御機序の解析	徳丸 嘉	皮膚科学	1,300,000	文部科学省科学研究費補助金
界面活性剤ベクシルを用いた悪性骨・軟部腫瘍の新規治療法の開発	坂山 憲史	整形外科	2,100,000	文部科学省科学研究費補助金
痛風伝子AKT1を分子標的とした新規口腔癌治療	中城 公一	歯科口腔外科	1,500,000	文部科学省科学研究費補助金
血清microRNAによる口腔癌スクリーニング検査法の確立	浜川 裕之	歯科口腔外科	1,800,000	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病患者における睡眠呼吸障害に関する多施設共同疫学研究	古川 慎哉	第三内科	2,300,000	文部科学省科学研究費補助金
自然免疫シグナルと肝樹状細胞の特性を利用した免疫療法の開発	阿部 雅則	地域医療学	1,900,000	文部科学省科学研究費補助金
リパビリンによるインターフェロンの抗C型肝炎ウイルス作用増強機序の解明	徳本 良達	光学医療診療部	1,700,000	文部科学省科学研究費補助金



(様式第11)

1 研究費補助金等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肥大型心筋症における各種遺伝子多型と心血管事故との関連についての検討	大木元 明義	脳卒中診療センター	500,000	文部科学省科学研究費補助金
造血幹細胞の幹細胞性を維持するZNF521遺伝子の機能解析	山之内 純	第一内科学	1,700,000	文部科学省科学研究費補助金
胸腺でのT細胞分化・増殖におけるGRKの機能解析と自己免疫疾患での役割	河野 政志	内科学第一	1,700,000	文部科学省科学研究費補助金
SDF-1/CXCR4シグナル伝達経路の表皮角化細胞遊走における役割の解析	宮脇 さおり	皮膚科学	1,800,000	文部科学省科学研究費補助金
小児の睡眠へのアプローチ法の開発と検証	堀内 史枝	精神神経医学	2,300,000	文部科学省科学研究費補助金
新素材ハイブリッド型人工神経の開発と応用	寺岡 正人	耳鼻咽喉科学	1,600,000	文部科学省科学研究費補助金
白内障手術後に発症する化膿性眼内炎の原因と対策に関する研究	川崎 史朗	眼科	1,000,000	文部科学省科学研究費補助金
腺様嚢胞癌の休眠療法の開発	住田 知樹	歯科口腔外科	2,300,000	文部科学省科学研究費補助金
アポトーシス抵抗性の解除に着目した口腔癌転移克服への新戦略	日野 聡史	歯科口腔外科	2,100,000	文部科学省科学研究費補助金
ベータ4インテグリン及び関連タンパク質を標的とした新規口腔癌治療法の開発	荒本 幸良	歯科口腔外科	1,700,000	文部科学省科学研究費補助金
虚血性内耳障害における内・外有毛細胞障害と低体温による障害抑制効果に関する研究	白馬 伸洋	耳鼻咽喉科学	1,050,000	文部科学省科学研究費補助金
多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究	斉藤 功	公衆衛生学	1,000,000	厚生労働省がん研究助成金
抗腫瘍抗原ペプチド免疫療法の改良に向けた研究	安川 正貴	内科学第一	1,400,000	厚生労働省がん研究助成金
グローバル早期臨床研究推進のための大学病院ネットワーク構築の基盤整備研究	野元 正弘	臨床薬理学	8,450,000	厚生労働省科学研究費補助金
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	橋本 公二	皮膚科学	52,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	白方 裕司	皮膚科学	1,500,000	厚生労働省科学研究費補助金
神経性疾患に関する調査研究	野元 正弘	臨床薬理学	1,200,000	厚生労働省科学研究費補助金
多施設コホートを基盤とした糖尿病・メタボリックシンドロームの発症要因と脳卒中・心保健指導への活用を前提としたメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出	斉藤 功	公衆衛生学	1,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
保健指導への活用を前提としたメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出	斉藤 功	公衆衛生学	2,400,000	厚生労働省科学研究費補助金
肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究	恩地 森一	内科学第三	2,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
難治性血管炎に関する調査研究	龍崎 真人	ゲノム病理学	2,300,000	厚生労働省科学研究費補助金
難治性血管炎に関する調査研究	長谷川 均	内科学第一	1,300,000	厚生労働省科学研究費補助金
急性高度難聴に関する調査研究	暁 清文	耳鼻咽喉科学	1,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	恩地 森一	内科学第三	3,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	橋本 公二	皮膚科学	2,500,000	厚生労働省科学研究費補助金
表皮水疱症の根治的治療法確立に関する研究	橋本 公二	皮膚科学	3,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
プライマリーケアで使用可能な、DNAチップを用いたうつ病の診断指標の作成	上野 修一	精神神経医学	1,500,000	厚生労働省科学研究費補助金
自家培養口腔粘膜上皮シート移植による角膜上皮再生治療法の多施設共同臨床試験	大橋 裕一(医)	眼科	2,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
かかりつけ医のための認知症の鑑別診断と疾患別診断に関する研究	福原 竜治	精神神経医学	2,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
難聴者自立支援のための埋め込み型骨導補聴器の開発	羽藤 直人	耳鼻咽喉科学	15,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
内耳装置システムを応用した感音難聴、耳鳴り治療技術の臨床応用	暁 清文	耳鼻咽喉科学	1,120,000	厚生労働省科学研究費補助金
新型薬剤耐性菌等に関する研究	土手 健太郎	集中治療部	2,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
円錐角膜の疫学と治療実態に関する研究	大橋 裕一(医)	眼科学	2,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
有棘赤血球舞踏病の疫学調査と診断法の確立および分子病態の解明	上野 修一	精神神経医学	1,500,000	厚生労働省科学研究費補助金
乳児ランゲルハンス細胞組織球症の病態解明と診療研究	石井 梨一	小児科	3,000,000	厚生労働省科学研究費補助金
血球貪食症候群の病態・診療研究	安川 正貴	内科学第一	3,500,000	厚生労働省科学研究費補助金

小計 36

(様式第11)

1 研究費補助金等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血球貪食症候群の病態・診療研究	石井 榮一	小児科	3,500,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
先天性角膜炎混濁の実態と診断法確立のための研究	大橋 裕一(医)	眼科	2,000,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
心電図健診による長期にわたる疫学調査: Bulgaria (ブルガダ) 症候群の長期予後	谷川 武	公衆衛生学	2,000,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
重症多形滲出性紅斑の生体試料取集・保管管理システムの確立	橋本 公二	皮膚科学	1,000,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
Fuchs 角膜炎皮変性症および関連疾患に関する調査研究	大橋 裕一(医)	眼科	1,500,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
放射線による認知機能障害を回避する転移性脳腫瘍の治療法に関する研究	大西 丘倫	脳神経外科	300,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
離島・農業地域における効果的な生活習慣病対策の運用と展開に関する研究	谷川 武	公衆衛生学	1,000,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
降圧治療および抗凝固療法の個人の特性に応じたテーラーメイド治療確立に関する研究	三木 哲郎	老年医学	500,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
肝がんの新規治療法に関する研究	恩地 森一	内科学第三	2,500,000	補 厚生労働省科学 委 研究費補助金
高血圧等循環器疾患のゲノム情報多角的意義付けと画期的診断・治療法の開発	三木哲郎	プロテオミクス研究センター	6,000,000	補 独立行政法人医 委 薬基盤研究所
小児期特異的血液疾患の分子遺伝学的解析「microRNAを用いた乳児白血病の病態解明」	石井榮一	小児医学	7,000,000	補 国立成育医療セ 委 ンター
小児期特異的血液疾患の分子遺伝学的解析「小児白血病発症に関わるTELとTEL-AML1遺伝	江口真理子	周産母子センター	1,000,000	補 国立成育医療セ 委 ンター
わが国における循環器病の発症、治療成績等のデータベース作成	斉藤 功	公衆衛生・健康医学	1,000,000	補 国立循環器病セ 委 ンター
多因子病としての小児循環器病の予防に向けた遺伝・環境要因の解明研究	楢垣高史	小児科	500,000	補 国立循環器病セ 委 ンター
老年医療・看護に係る効果的、効率的な人材育成、研修の開発に係る研究	三木哲郎	プロテオミクス研究センター	2,000,000	補 国立長寿医療セ 委 ンター
				小計 15

注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 122

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Blood	Aurora-A Kinase: A novel target of cellular immunotherapy for leukemia.	Ochi, Toshiki	第一内科
J. Biol. Chem.	The role of zinc finger protein 521/early hematopoietic zinc finger protein erythroid cell differentiation.	Matsubara, Etsuko	第一内科
Am. J. Hematol.	Clinical efficacy of WT1 peptide vaccination in patients with acute myelogenous leukemia and myelodysplastic syndrome.	Yasukawa, Masaki	第一内科
Int. J. Hematol.	Clinical significance of co-expression of CD21 and LFA-1 in B-cell lymphoma.	Tanimoto, Kazushi	第一内科
Br. J. Haematol.	Identification of a novel epitope derived from CML66 which is recognized by anti-leukemia cytotoxic T lymphocytes.	Suemori, Kouichiro	第一内科
J. Gen. Virol.	HBZ is an immunogenic protein, but not a target antigen for human T-cell leukemia virus I-specific cytotoxic T lymphocytes.	Suemori, Kouichiro	第一内科
Int. J. Hematol.	Compound heterozygous mutations in the PROSI gene responsible for quantitative and qualitative protein S deficiency.	Yamanouchi, Jun	第一内科
J. Med. Syst. Online	A geographical information system using Google MAPAPI for guidance to referral hospitals.	Kobayashi, Shinji	第一内科
Internal Med.	Germ cell tumor concomitant with acquired immuno deficiency syndrome.	Ochi, Toshiki	第一内科
Circulation Journal 73: 885-891, 2009.	Elevated Serum Uric Acid is an Independent Predictor for Cardiovascular Events in Patients With Severe Coronary Artery Stenosis. -Subanalysis of the Japanese Coronary Artery Disease (ICAD)	Takafumi Okura	第二内科
Heart 95: 290-296, 2009.	Determinants of Left Ventricular Untwisting Behavior in Patients with Dilated Cardiomyopathy: Analysis by Two-dimensional Speckle Tracking.	Makoto Saito	第二内科
Journal of Cardiology 54: 66-70, 2009.	Association of Monocyte Chemoattractant Protein 1 Gene Polymorphism with Susceptibility to Nonfamilial Idiopathic Dilated Cardiomyopathy.	Akiyoshi Ogimoto	第二内科
American Journal of Hypertension 22: 145-150, 2009.	Prevention of Vascular Injury by Combination of an AT 1 Receptor Blocker, Olmesartan, with Various Calcium Antagonists.	Shinji Inaba	第二内科

(様式第11)

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Research 32: 500-504, 2009.	The Influence of Insulin Resistance and Obesity on Left Atrial Size in Japanese Hypertensive Patients.	Yuji Shigematsu	第二内科
Therapeutic Research 30: 1483-1490, 2009.	A 3-month Evaluation of Once Daily Inhaled Tiotropium for Elderly Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	Hironobu Hamada	第二内科
新薬と臨床 58: 346-361, 2009.	本態性高血圧患者に対する Telmisartan40mg/HCTZ12.5mg配合錠と Telmisartan80mg/HCTZ12.5mg配合錠の 長期投与における有用性と安全性の検討	槍垣寛男	第二内科
新薬と臨床 58: 1961- 1968, 2009.	高齢者肺炎に対するbiapenemの有用性と 安全性の検討	濱田泰伸	第二内科
日本血管内治療学会雑 誌 10: 22-28, 2009.	血管内視鏡による薬剤溶出ステント8ヶ月 後における血管壁性状の評価 - Sirolimus-Eluting Stent vs Paclitaxel- Eluting Stent-	川上秀生	第二内科
Liver International	Diabetes pattern on the 75-g oral glucose tolerance test is a risk factor for hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis C virus.	小西 一郎	先端病態制御内科 学
American Journal of Roentgenolog	Virtual puncture line of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma of the caudate lobe.	廣岡 昌史	先端病態制御内科 学
Digestive Endoscopy	Efficacy of laparoscopic radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma compared to percutaneous radiofrequency ablation with artificial ascites.	廣岡 昌史	先端病態制御内科 学
Journal of Gastroenterology	Early biochemical response to ursodeoxycholic acid predicts symptom development in patients with asymptomatic primary biliary cirrhosis.	畔元 信明	先端病態制御内科 学
Psychogeriatrics 9(4): 204-207.2009	Two cases of frontotemporal dementia with predominant temporal lobe atrophy.	Shimizu, H	精神科
不眠研究 2009: 71-74, 2009.	発達障害児における睡眠と行動の問題と の関連.	堀内 史枝	精神科
精神医学 51: 469-472, 2009	前頭側頭葉変性症の精神症状に対する抑 肝散の使用経験.	石川智久	精神科
老年精神医学雑誌 20(11): 1287-1295, 2009	ビタミンB12の経静脈的投与により、精神症 状、意識障害および認知機能障害が著明 に改善した2例.	榎林哲雄	精神科
精神科 15(4):411-416, 2009	Perospironeへの置換により、陰性症状の著 明な改善と体重減少を認めた統合失調症 の2例.	清水秀明	精神科
愛媛医学 28(2):90-98, 2009	統合失調症における向精神薬の多剤併用 からperospironeによる単剤化への経験.	清水秀明	精神科
Bipolar Disorder 7: 20- 24, 2009	抗うつ薬投与により躁転した初老期発症の 気分障害の1例.	圓田亜希	精神科

小計 16

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int.J.Cancer	Feasibility of chemohyperthermia with docetaxel-embedded mangetoliposome as minimally invasive local treatment for cancer	M.Yoshida,	消化管・腫瘍外科
Hepato-Gastroenterology	Esophageal cancer resection associated with a right aortic arch after descending aortic graft replacement	Y.Yamamoto,	消化管・腫瘍外科
Surgery Today	metachronous intra ductal papillary mucinous neoplasm with carcinoma in situ of the pancreas arising with a short interval	Y.Watanabe,	消化管・腫瘍外科
Hepato-Gastroenterology	Portal and splenic venous thrombosis after splenectomy in patients with hyperthermia	M.Yoshida,	消化管・腫瘍外科
Bio-Medical Materials and Engineering	Development of a second-generation radiofrequency ablation using sintered MgFe <sub>2</sub> O <sub>4</sub> needles and alternating magnetic field for human cancer therapy	Y.Watanabe,	消化管・腫瘍外科
Proc of International Japan-Korea Seminar on Ceramics	Effect of crystal sizes on heat generation ability in AC magnetic field for FeFe <sub>2</sub> O <sub>4</sub> ferrite powder prepared by bead milling	H.Aono	消化管・腫瘍外科
Proc of International Japan-Korea Seminar on Ceramic	Preparation of fine ferrite powder using bead mill and its heat generation ability in AC magnetic field	T.Naohara,	消化管・腫瘍外科
Proc of International Japan-Korea Seminar on Ceramic	High Heat Generation Ability under AC Magnetic Field for Y <sub>3</sub> Fe <sub>5</sub> O <sub>12</sub> Prepared by Reverse Coprecipitation Method	H.Hirasawa,	消化管・腫瘍外科
Proc of International Japan-Korea Seminar on Ceramic	Computer simulation of heat generation ability in AC magnetic field for needle-type materials	H.Aono	消化管・腫瘍外科
International journal of hyperthermia	Repeated inductive heating using a sintered MgFe <sub>2</sub> O <sub>4</sub> needle for minimally invasive local control in breast cancer therapy	S.Yukumi,	消化管・腫瘍外科
Surgery Today	Adenoendocrine carcinoma of the accessory papilla of the duodenum: Report of a case	Y.Yamamoto	消化管・腫瘍外科
日本内視鏡外科学会雑誌	腹腔鏡下腸閉塞手術におけるMDCTを用いたガストログラフィン造影CTの有用性	山本祐司	消化管・腫瘍外科
J Surg Res	Protective effect of adeno-mediated human Bcl-xL gene transfer to the mouse liver in a partial ischemia/reperfusion model	Kazuo Honda	肝胆膵・移植外科
J Surg Res	Oncolytic gene therapy combined with double suicide genes for human bile duct cancer in nude mouse models.	Yo Kojima	肝胆膵・移植外科
British Journal of Surgery	The utility and a pitfall of FDG-PET in a diagnosis of advanced and recurrent biliary tract cancer.	Fumiki Kushihata	肝胆膵・移植外科
British Journal of Surgery	Devices for the prevention of pancreatic fistula following distal pancreatectomy.	Jota Watanabe	肝胆膵・移植外科
British Journal of Surgery	Clinical effectiveness of SF in the liver surgery.	Masahide Hatano	肝胆膵・移植外科
Pathology International.	Expression of sphingosine kinase 2 in synovial fibroblast of rheumatoid arthritis contributing to apoptosis by a sphingosine analogue, FTY720.	鎌田知美	運動器学

(様式第11)

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Spinal Disord Tech.	Resolution of intraspinal retro-odontoid cyst associated with os odontoideum following posterior fixation.	尾形直則	運動器学
Arthroscopy.	Laser-guided placement of the tibial guide in the transtibial technique for anterior cruciate ligament reconstruction.	高橋敏明	運動器学
J Arthroplasty.	The relationship between increased hip range of motion, wear, and locking mechanism failure in the Harris-Gallante acetabular component.	今井浩	運動器学
J Orthop Sci.	Correction of hallux valgus deformity using the center of rotation of angulation method.	間島直彦	運動器学
Skeletal Radiol	Reproducibility of joint space width and the intermargin distance measurements in patients with medial osteoarthritis of the knee in various degrees of flexion.	高橋敏明	運動器学
愛媛医学	湿布の転移巣に対する抗腫瘍効果について	坂山憲史	運動器学
日整会誌	先天性内反足の病態と治療	山本晴康	運動器学
理学療法ジャーナル	膝関節疾患の関節鏡視下手術と理学療法	高橋敏明	運動器学
M B Orthopaedics	先天性内反足に対する診断と治療	山本晴康	運動器学
J Allergy Clin Immunol	The influence of hepatic damage on serum soluble Fas ligand levels of patients with drug rashes	Tohyama M	皮膚科
Cancer Sci	From tumor lymphangiogenesis to lymphovascular niche	Hirakawa S	皮膚科
Eur J Immunol	IL-17 and IL-22 mediate IL-20 subfamily cytokine production in cultured keratinocytes via increased IL-22 receptor expression	Tohyama M	皮膚科
Am J Pathol	Nodal lymphangiogenesis and metastasis: Role of tumor-induced lymphatic vessel activation in extramammary Paget's disease	Hirakawa S	感覚皮膚医学
J Dermatol Sci	Living skin equivalents constructed using human amnions as a matrix.	Yang L	感覚皮膚医学
J Am Acad Dermatol	A randomized double-blind trial of intravenous immunoglobulin for pemphigus	Amagai M, Hanakawa K	感覚皮膚医学
Eur Arch Otorhinolaryngol	Ear-pick injury as a traumatic ossicular damage in Japan	Hakuba N	頭頸部・感覚器外科学
HEAD & NECK	Prospective study of early detection of pharyngeal superficial carcinoma with the narrowband imaging laryngoscope	Ugumori T	頭頸部・感覚器外科学
Neuroreport	Glutamate agonist causes irreversible degeneration of inner hair cells	Hyodo J	頭頸部・感覚器外科学
Neuroscience Letters	Ischemic tolerance in the cochlea	Takeda S	頭頸部・感覚器外科学

小計 19

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Otology & Neurotology	with atelocollagen for closing chronic tympanic membrane perforations in 87 patients	Hakuba N	頭頸部・感覚器外科学
Audiology Japan	聴性定常反応を用いた他覚的聴力検査機器の小児への使用経験	寺岡正人	頭頸部・感覚器外科学
Facial Nerve Research	患者アンケートを用いた顔面神経麻痺後遺症に対するリハビリテーションの効果検討	鮎矢美里	頭頸部・感覚器外科学
Facial Nerve Research	末梢性顔面神経麻痺患者における電気味覚検査の臨床的検討	寺岡正人	頭頸部・感覚器外科学
Facial Nerve Research	徐放化栄養因子を用いた顔面神経減荷手術の臨床研究—多施設共同でのエビデンス確立に向けて—	羽藤直人	頭頸部・感覚器外科学
Facial Nerve Research	顔画像センシング技術OKAO® VISIONを用いた顔面神経麻痺の新しい客観的評価法の開発	澤井尚樹	頭頸部・感覚器外科学
Otol Jpn	低体温による虚血性内耳障害の防御:低体温のタイミングと蝸牛内NO <sub>x</sub> 濃度	竹田将一郎	頭頸部・感覚器外科学
愛媛医学	顔面神経高度麻痺モデルにおける表情筋での遺伝子発現	寺岡正人	頭頸部・感覚器外科学
耳鼻と臨床	スギ花粉症に対する塩酸オロパジン投与の有用性	高橋宏尚	頭頸部・感覚器外科学
頭頸部自律神経	内耳における虚血耐性	竹田将一郎	頭頸部・感覚器外科学
耳鼻と臨床	3回の声帯外方牽引術(Bjnell法)を要した両側声帯麻痺の1例	田口重紀	頭頸部・感覚器外科学
耳鼻咽喉科臨床	脳底動脈解離後に生じた高度感音難聴例	岡田昌浩	頭頸部・感覚器外科学
耳鼻咽喉科臨床	高圧酸素療法が奏功したMRSA中耳炎例	高木大樹	頭頸部・感覚器外科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	急性感音難聴の治療—高齢者のバリエーション	暁 清文	頭頸部・感覚器外科学
頭頸部自律神経(記録集)	神経幹細胞による虚血性内耳障害の抑制効果	白馬伸洋	頭頸部・感覚器外科学
Parkinsonism and Related Disorders 15:351-353, 2009.	Plasma amantadine concentrations in patients with Parkinson's disease	Noriko Nishikawa	病態治療内科学
Parkinsonism and Related Disorders 15(1):S21-S24, 2009.	Inter- and intra-individual variation in L-dopa pharmacokinetics in the treatment of Parkinson's disease	Masahiro Nomoto	病態治療内科学
Journal of Pharmacological Sciences 110:64-68, 2009.	Zonisamide increases dopamine turnover in the striatum of mice and common marmosets treated with MPTP	Hayato Yabe	病態治療内科学
Movement Disorders 24(1):S277, 2009	A multicenter randomized control trial of amantadine for dyskinesia in Parkinson's Disease	M Nomoto	病態治療内科学
臨床評価 36(3):695-702, 2009.	CPTアカデミック・ネットワークの現状と今後の展望—設立5周年を迎えて—	野元正弘	病態治療内科学

(様式第11)

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨牀 67(4):179-184, 2009.	パーキンソン病-基礎・臨床研究のアップデート- IV.検査・診断 臨床症状 運動症状	野元正弘	病態治療内科学
日本臨牀 67(4):513-517, 2009.	パーキンソン病-基礎・臨床研究のアップデート- VI.治療上の問題点と対策 非運動症状 自律神経症状 排便障害	永井将弘	病態治療内科学
臨床薬理 40(4):129, 2009	第40巻第4号 特集/臨床薬理試験認定医をめぐる課題 巻頭言	野元正弘	病態治療内科学
臨床薬理 40(4):157-162, 2009.	治験担当医の探し方と育て方	森豊隆志	臨床薬理センター
臨床薬理 40(4):195S-196S, 2009.	利用できる相互作用と避けるべき相互作用	野元正弘	病態治療内科学
臨床評価 37(1):116-126, 2009.	臨床試験と地域差-国際比較-/ 国際共同治験における担当医の研修と医療機関の体制	野元正弘	病態治療内科学
臨床評価 37(1):245-250, 2009.	パネルディスカッション3:食品,サプリメントの臨床エビデンス / お薬外来の現状	永井将弘	病態治療内科学
Geriatr.Med. 47(8):999-1002, 2009.	2.パーキンソン病の治療とケア / 1)主なパーキンソン病治療薬の作用機序と副作用	田邊奈千	病態治療内科学
臨床評価 37(2):457-470, 2010.	国際共同治験推進会議 in Tokyo パネルディスカッション:国際共同治験の真のパートナーになるために	野元正弘	病態治療内科学
神経治療学 27(1):91-96, 2010.	進行期Parkinson病に対するL-DOPA血中濃度を指標とした薬剤コントロールの検討	永井将弘	病態治療内科学
難病と在宅ケア 16(2):29-32, 2010.	パーキンソン病講座 薬物動態からみたパーキンソン病の治療戦略【前編】	野元正弘	病態治療内科学
Biochem. Biophys. Res. Commun.	Anti-tumor effect of small interfering RNA targeting the androgen receptor in human androgen-independent prostate cancer cells.	K Azuma	泌尿器科
Biochem. Biophys. Res. Commun.	Knockdown of Akt isoforms by RNA silencing suppresses the growth of human prostate cancer cells in vitro and in vivo	T Sasaki	泌尿器科
Psychogeriatrics 9(4): 204-207.2009	Two cases of frontotemporal dementia with predominant temporal lobe atrophy.	Shimizu, H	精神科
不眠研究 2009: 71-74, 2009.	発達障害児における睡眠と行動の問題との関連.	堀内 史枝	精神科
精神医学 51: 469-472, 2009	前頭側頭葉変性症の精神症状に対する抑肝散の使用経験.	石川智久	精神科
老年精神医学雑誌 20(11): 1287-1295, 2009	ビタミンB12の経静脈的投与により、精神症状、意識障害および認知機能障害が著明に改善した2例.	櫻林哲雄	精神科
精神科 15(4):411-416, 2009	Perospironeへの置換により、陰性症状の著明な改善と体重減少を認めた統合失調症の2例.	清水秀明	精神科
愛媛医学 28(2):90-98, 2009	統合失調症における向精神薬の多剤併用からperospironeによる単剤化への経験.	清水秀明	精神科
Bipolar Disorder 7: 20-24, 2009	抗うつ薬投与により躁転した初老期発症の気分障害の1例.	園田亜希	精神科

小計 20



## (様式第11)

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
AJNR Am J Neuroradiol	Topographic analysis of the inferior parietal lobule in high-resolution 3D MR imaging.	Kiriyama I	放射線科
Eur Radiol	Peri-infarct dysfunction in post-myocardial infarction: assessment of 3-T tagged and late enhancement MRI.	Inoue Y	放射線科
Circulation Journal	Detection of myocardial ischemia using 64-slice MDCT.	Nagao M	放射線科
AJR Am J Roentgenol	Myocardial ischemia in acute coronary syndrome: assessment using 64-MDCT	Nagao M	放射線科
愛媛医学	画像診断の進歩について	望月輝一	生体画像応用医学
Jpn J Radiol	Widespread metastases from sarcomatoid renal cell carcinoma detected by (18)F-FDG positron emission tomography/computed tomography.	Hyodo T	放射線科
Int J Oncol	Downregulation of SPARC expression inhibits cell migration and invasion in malignant gliomas	Seno T	脳神経外科
Neurol Med Chir	Significance of an ultrasound-linked navigation system for brain tumor surgery: evaluation of intraoperative brain shift Significance of an ultrasound-linked navigation system for brain tumor surgery: evaluation of intraoperative brain shift	Ohue S	脳神経外科
Neurosurgery	Retrosigmoid suprafloccular transhorizontal fissure approach for resection of brainstem cavernous malformation	Ohue S	脳神経外科
Neurosurg Review	Surgical management of brainstem cavernomas: selection of approaches and microsurgical techniques	Ohue S	脳神経外科
脳神経外科遠報	脳神経外科手術におけるICG蛍光血管撮影について	渡邊英昭	脳神経外科
Geriatric Neurosurgery	高齢者の未破裂脳動脈瘤に対する直達手術の治療成績:高次脳機能障害に影響する因子の検討	久門良明	脳神経外科
脳卒中の外科	脳血管障害の開頭術における手術支援システムの有用性と問題点	久門良明	脳神経外科
CI研究	Multimodality画像を用いた神経腫瘍摘出術の有用性	大上史朗	脳神経外科

小計 14

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

合計 120

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 横山 雅好
管理担当者氏名	放射線部長・ME機器センター長 望月 輝一、薬剤部 荒木 博陽、 医療情報部長 石原 謙、看護部長 田淵 典子、総務課長 山崎 哲朗、 人事労務課長 和田 邦夫、医事課長 藤田 義和、 医療サービス課長 白石 建樹、経営管理課長 池田 政昭、 研究協力課長 亀岡 輝芳

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		各診療科 薬剤部 看護部 放射線部 医療情報部 医事課	エックス線写真は集中管理 (放射線部) カルテは医療情報部で一括保管 (1患者1カルテ)
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	人事労務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	研究協力課	
	高度の医療の研修の実績	人事労務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課	
第規 一則 号第 一 掲条 げの 十 体 制第 一 確 保各 の号 状及 び 第 九 条の 二 十 三 第 一 項	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療サービス課	
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療サービス課	
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療サービス課	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理 を行う部門の設置状況	医療サービス課	
	当該病院内に患者から の安全管理に係る相談 に適切に応じる体制の 確保状況	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事課 薬剤部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	運営部長 井上 由紀
閲覧担当者氏名	総務課長 山崎 哲朗
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	81.1%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数	11,477人	
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,949人	
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	235人	
	D:初診の患者の数	16,271人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： ・ 患者中心の医療の実践 ・ 医療安全に関する組織的取り組み ・ インシデントの報告と情報の共有 ・ 機能する医療事故防止対策 ・ 適切な医療事故への対応 ・ 患者相談の実施、指針等の閲覧 ・ 医療安全教育・研修、啓発 ・ 医療安全管理マニュアルの作成・更新	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 1 回
・ 活動の主な内容： ・ 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること ・ 医療事故防止対策の検討及び研究に関すること ・ 医療事故に対する対応策の策定に関すること ・ 医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関すること ・ 患者・家族等及び医療事故に関係した者への対応に関すること ・ 関係機関等への報告及び報道への対応に関すること ・ その他、医療の安全管理及び医療事故対策に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 第 1 回講演会のテーマ：医療事故と刑事裁判 第 2 回講演会のテーマ：睡眠導入剤の使用と夜間の転倒 ・ 夜間の転倒転落の状況と薬剤が関連した事例について ・ 睡眠導入剤の使い方について 上記の講演会欠席者に対して、DVD上映会を 2 回追加で開催	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 会議等でのインシデント報告内容の検討、根本原因の把握、改善内容の確認及び以上の情報共有 ・ 医療安全管理部で年間活動目標立案、実施 ・ 医療安全のための現場確認ラウンド実施 ・ 医療安全に関する講演会を実施し、職員の教育、啓発を実施	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名)
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3 名) その他専従 1 名

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（1）名 兼任（19）名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告のあったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関する事</li> <li>・ インシデント審議委員会及びインシデント調査委員会に関する事</li> <li>・ インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関する事</li> <li>・ 医療安全体制システム及びマニュアルの見直しに関する事</li> <li>・ 医療安全管理委員会等で決定した事項についての周知の確認及びそれに必要な指導に関する事</li> <li>・ 安全管理に関する教育・研修等の実施に関する事</li> <li>・ 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成・保存等の運営に関する事</li> <li>・ 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされている事の確認及び必要な指導に関する事</li> <li>・ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導に関する事</li> <li>・ 事故等の原因究明が適切に実施されている事の確認及び必要な指導に関する事</li> <li>・ 他の委員会、患者相談窓口等他部門及びリスクマネージャー等との連絡調整に関する事</li> <li>・ 医療事故防止等に係る情報提供に関する事</li> <li>・ その他医療の質の向上及び安全管理に関する事</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
・ 指針の主な内容： ・ 病院感染対策に関する基本的な考え方 ・ 病院感染対策のための委員会等に関する事項 ・ 職員研修の実施 ・ 病院感染発生時の対応 ・ 病院感染対策マニュアルの整備 ・ 患者への情報提供と説明 ・ その他院内における感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ・ 院内感染の調査、予防対策に関すること ・ 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること ・ 院内感染発生時の措置に関すること ・ 職員の院内感染の教育に関すること ・ その他院内感染防止に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
・ 研修の主な内容： 第1回講演会のテーマ：創傷部位感染対策について 周術期の抗菌薬投与について 第2回講演会のテーマ：新型インフルエンザに関する勉強会（1回目） 第3回講演会のテーマ：新型インフルエンザに関する勉強会（2回目） 第4回講演会のテーマ：医療従事者をインフルエンザから守るために インフルエンザ予防対策について 第5回講演会のテーマ：唾液の機能と口腔ケア 一誤嚥性肺炎の予防をめざして— 上記の講演会欠席者に対して、DVD上映会を計4回追加で開催	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 定期的なICTラウンド（1回/週）の実施 ・ 微生物検出状況の把握。および耐性菌の検出や、通常は検出数の少ない微生物の検出等があった場合の感染対策の現状確認 ・ 抗菌薬の使用状況の把握 ・ 感染対策のトピックスなどについての学習会の開催	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：ハイリスク薬の取り扱いについて（平成 21 年 5 月 26 日）<ul style="list-style-type: none"><li>● ハイリスク薬品とはどのような薬品をいうか。</li><li>● ハイリスク薬品の取り扱い上の注意について。</li><li>● ハイリスク薬品による事故事例を示し、医薬品安全管理の啓発を行う。</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 (有・無)</li><li>業務の主な内容：病棟確認ラウンド時に医薬品の管理状況等についてチェックを行っている。</li></ul> <p>医薬品の採用・購入に関する事項 医薬品の管理に関する事項 患者の持参薬歴情報の情報収集と情報の共有化に関する事項 患者に対する予薬や服薬指導に関する事項 医薬品の安全使用に係る情報の提供に関する事項 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>製薬企業からの情報収集（添付文書・インタビューフォーム、緊急安全性情報等） 医薬品医療機器総合機構からの情報収集（医薬品医療機器等安全性情報、医療安全情報） 厚生労働省、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会からの情報収集</li><li>その他の医薬品安全使用を目的とした改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>● 手術前の抗血小板剤投与チェック（手術部カンファレンス時に手術予約患者に対する外来投薬・入院投薬・持参薬を含めた抗血小板剤の投薬歴情報の提供を行っている）</li><li>● 要希釈薬品（10%塩化ナトリウム）の病棟・外来定数配置から撤収を行った。</li></ul></li></ul>	



(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 1 回
・ 研修の主な内容： 経腸栄養ポンプについて 保育器について 輸液、シリンジポンプの適正使用について	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、除細動装置、ほか	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 上記研修時の意見交換、また医療機器安全管理委員会開催等を通じて実施 特になし	